「先生の教育」を考える

－日本学術会議での教員養成に関する会議に参加して－

開倫塾
塾長　林　明夫

１．はじめに

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただきありがとうございます。

素晴らしい季節です。山々が一斉に浅い緑から深い緑に変わる素晴らしい季節なので、私は今の季節がいいなあと思います。

明日は、栃木県の各市町村の選挙が行われます。是非「これぞ」と思う人に投票して下さい。投票に行くことが、自分の公民としての権利を行使する 1 番大事なことだからです。

自分の支持する、この人にこの町を任せたいという方に投票していただければ、社会的役割を果たしているということになると思います。どうかよろしくお願い致します。

２.「先生の教育」を考える－日本学術会議での教員養成に関する会議に参加して－

(１)今日は、1 か月くらい前に日本学術会議というところに出かけて、「知識社会における教師の科学的教養と教員養成」という勉強会に参加してきました。そこで、少し考えたことをお話したいと思います。私は勉強が足りませんので、いろいろな勉強会に行かせていただいています。ホームページで探してみますと、私の足りない勉強を補ってくれるこれぞという団体が 100 くらいあります。それらの HP を一週間に 1 回くらいのぞいて、よい勉強会はないか探しています。たまたま「日本学術会議」もその中の 1 つで、行事予定を見ていたら私にとって大切と思われる勉強会があることを知りました。テーマは、「先生の教育をどうするのか」です。私も非常に関心がありますので、勉強会に参加させていただきました。

(２)今から 25 年くらい前の 1980 年代は、日本の教員養成教育は世界最高水準だったのですが、現在では日本の教員養成の水準は大幅におちてしまったようです。もしかしたら OECD の 30 か国中で最も低い水準になってしまっているかもしれません。どうしてこうなってしまったのでしょうか。20 年～ 25 年前の 1980 年代の日本の先生のレベルは世界最高基準でした。戦争が終わって、アメリカの十数州では、学校の先生は大学などの高等教育機関で教育を受けていました。しかし他の国では、日本の戦前のように、中等教育を終えた 18 歳くらいまでの方が学校の先生の教育を終えて、幼稚園、小学校、中学校の先生になったわけです。戦後、日本は、教員養成という観

点からはアメリカからよい影響を受けて、終戦直後から大学レベルで先生としての教育が行われました。また、日本の先生への待遇は、他の公務員と比べて非常に高く、優秀な方が先生を志望しました。これに加えて、学校内・外でも先生としての使命を自覚している先生が多かったため、学校の先生は地域社会や保護者、生徒から非常に信頼されていました。ただ、このような状況は1980 年代くらいまででした。

(３)それが最近では、なぜ OECD の先進諸国の中で低いレベルになってしまったのか。その理由の 1 つは、ヨーロッパの国々やアメリカの他の州でも、1980 年代までには日本やアメリカの 16 州と同じように、大学で教員養成教育をするようになったからです。つまり、欧米の国々も、大学の学部レベルで教師教育を引き上げてきたのです。

(４)もう 1 つの理由は、日本以外の多くの国々では、1990 年代以降は大学だけでなく大学院に教員養成教育を引き上げたことです。日本はその努力を怠りました。

(５)例えば、フィンランドは、3 年ごとに行われる OECD PISA 調査(15 歳時の学力国際調査)で 2003 年、2006 年と世界で 1 番になりました。小学校 4 年生まで教えるクラスルームティーチャー：クラス担任の先生も、5 年生から高校 3 年生までを教えるサブジェクトティーチャーという科目別の先生も、すべての先生が修士号を持っています。校長先生の多くは、博士号を持っています。また、アメリカでは、7 割の先生が修士号を持っています。そして校長先生の 4 割は博士号を持っています。ドイツ、フランスでは修士号をあたえていませんが、学部卒業後は大学院レベルで先生の教育を行っています。

(６)日本は、幼稚園の先生の 7 割は短期大学卒業です。小学校の先生で大学院の修士号を持っている人は 1.7 %、中学校の先生で修士号を持っている人は 2.7 %、高校の先生でも修士号を持ってる人は 10.7 %と 1 割しかいません。欧米と比べて、教員のレベルが 1980 年代のまま、短大、大学での先生養成のレベルに留まっています。

OECD の国々では、教員レベルは大学院修士課程、校長のレベルは大学院博士課程までいってしまっています。これが日本の先生と校長の最大の問題点です。そこで、ようやく日本でも、専門職大学院を発足させようという動きが出てきました。私は、この動きが全国に広がるとよいと思います。

３．おわりに

今日は、日本学術会議で勉強してきたことを少しお話させていただきました。皆様も是非学校の先生の教育についてお考え下さい。

－ 2008 年 10 月 9 日加筆－